

芦都築第 322 号

平成23年 2月28日

芦屋市監査委員 山 本 彼一郎 様

芦屋市監査委員 松 木 義 昭 様

芦屋市長 山 中 健

定期監査（工事監査）の結果に基づく措置について（通知）

平成23年2月2日付け，芦監報第16号で報告のありました定期監査（工事監査）の結果に基づき，都市環境部建築課において，別紙のとおり措置を講じます。

## 別紙 措置事項

### 1 竣工後のレベル測定について（監査報告書 2（1）ウ）

竣工後は定期点検実施時に不同沈下していないかどうかのレベル測定を行い、不同沈下に即応できるように対処します。

### 2 積算について（監査報告書 2（1）エ）

積算数量のチェックについては、各工種毎に類似物件と数量比較することによって、より迅速に検証できるように検討します。単価に関しては、建設物価は月刊で、コスト情報は季刊で発刊されており、掲載されている単価は、経済情勢の変化に対応できていると考えております。またコスト情報は、今までの「歩掛積算方式」から市場原理を導入するための「市場単価方式」に対応した建築工事市場単価も掲載されており、その単価については、競争原理が働いている市場単価であると認識しております。

上記の刊行物等以外の単価については、応札業者から徴収している内訳書を分析することにより、競争原理の働いている単価の把握に努めます。

### 3 施工計画について（監査報告書 2（2）ア）

施工計画書の作成については、発注者としてその現場において特に留意すべき事項を明確にし、その事項について総合施工計画書で反映させるようにします。

### 4 施工管理資料の整備について（監査報告書 2（2）イ）

工事写真については、意図を明確にして撮影するように留意します。

### 5 現場での確認事項について（監査報告書 3）

天井埋込式レールの吊り下げ強度については、強度自身に問題はありませんが、訓練時に、天井埋込式レールが左右に振れる可能性が想定されるため、アングルを使用して下地枠を製作し、吊りボルトを短くするなどの措置を行いました。

耐火被覆施工時の水垂れについては、工法は半乾式吹付けロックウールで、国土交通省認定の製品を採用し、材料混合に当たっては、バッチ単位の管理としており、1バッチにつきロックウール 33.4kg、セメント 25kg、水 50L のメーカー仕様で配合しています。施工管理においても的確に行っており、施工後の被覆の付着も確認しましたが、問題はありませんでした。また、デッキスラブのたわみについては、構造的に問題はなく、補強等の必要も無いことを確認しました。

### 6 陸屋根部の排水機能の確保等について（監査報告書 3（2））

陸屋根部については、6箇所のドレインを設けており、必要な排水機能は確保しております。防水施工についても、工程毎に確認を行いました。また、今後落ち葉によりドレインの詰まりを防止するように、ドレイン周りにカバーを取り付けました。維持管理については、施設管理者に引き継ぐとともに、定期点検時に現場確認を行います。